科目名	細胞病理検査学演習	分野・必選別・単位数	専門科目(臨床検査医学)	選択	2単位

担当教員	◎教授 望月 眞　講師 島田智子						
課程	博士前期	配当年次	2年	配当学期	通年	授業方法	演習

授業の概要	細胞病理検査学講義で履修した知識に基づき、実際の症例の標本観察を行う。診断や予後判定に役立つ免疫組織化学染色や分子病理学的手法に関連した文献調査を行い、細胞病理学的知見からの形態学的特徴についての考察を行う。
授業の到達目標	①各疾病の病態解析方法としての分子病理学的手法、免疫組織化学的手法など病理検査学に関する検査技術を身につける。 ②さまざまな症例の文献調査を通して細胞病理学的知見からの形態学的所見や解析方法についての知識を有している。

授業計画

回数	担当者	行動目標
1	島田　智子　講　師	病理組織学、臨床細胞学、分子病理学を中心とする分野の文献調査をおこない、治療や予後判定に有用な、細胞病理形態学的所見の可能性を検討することができる。 悪性腫瘍の診断や予後判定に有用な免疫組織化学染色の手法や分子病理学的手法についての理論や方法を文献調査に基づいて提案し、分析することができる。分析した結果を考察し、まとめることができる。
2	島田　智子　講　師	
3	島田　智子　講　師	
4	島田　智子　講　師	
5	島田　智子　講　師	
6	島田　智子　講　師	
7	島田　智子　講　師	
8	島田　智子　講　師	
9	望月　眞　教　授	
10	望月　眞　教　授	
11	望月　眞　教　授	
12	望月　眞　教　授	
13	望月　眞　教　授	
14	望月　眞　教　授	
15	望月　眞　教　授	

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	配布資料を事前に読んでおくこと。それに関連のある文献を調べ、事前に目を通しておくことが望ましい。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、関連する文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	総合的に30時間の予復習が必要。

教科書	随時　指示する。
参考書	随時　指示する。
成績評価の方法および基準	レポート50%、口頭試問50%
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。